

年少組、第二保育期

—満四歳、満五歳—

生活訓練

第十三週

上靴下靴の穿きかへは、幼稚園によつてそれくべきまりが違ふ。こゝでは庭靴を室内靴と區別させてゐるところから、かういふ問題が出て来る。そうでなくこゝでは、この通りの訓練はいらないであらう。しかも、この訓練の意味は、必ずしも庭靴問題といふ狭い話ではない。斯うした

としてやつてゐる人がなければならぬ。それは小使か、給仕か、いゝえ／＼先生である。先生が自ら子どもの靴の掃除をして下さるのである。それを手傳ふのである。汚い靴のこゝで尊い先生のお手傳ひをするのである。こゝの訓練の意味はこの點にある。

親が聞いたら何んといふだらうか。えつ、靴掃除。うちの坊ちゃんにはそんなことはさせて呉れるなと言つて來るお机の上、お戸棚の中、下へおりてもお庭の掃除が山々で、靴ごまでは多くは下つて來ない。それを手傳はせるのである。手傳はせるのである。手傳ふといふからには、先づ先生のお手傳ひの稽古をさせてゐる譯ではありません。先生

が掃除して下さるのを見ながら、平氣で知らん顔をしてる
られるやうな、そんな、汚れた靴の革のやうな堅い心もち
にしたくないのですつて。それでもまだよく分らなかつた
ら、はつきり言つておやりなさい。靴の掃除をして何故よ
くないのですか。それも自分の靴の掃除を。——世に

は、わが子を殿様か公達のやうに育てるこばかり考てる
る親があるのですからね。
食事前後の挨拶。——子さもにさせる訓練要目としては、
こゝに始めて出て來ましたが、先生は前からいつもしてゐ
るのでないこ眞の訓練になりますまい。又、先生さへ前か
らそうしてゐるなら、何も第二保育期第十三週を待つまで
もないこであるらう。

第十四週

誘導保育

第十三週

紙箱の家

紙箱、殊に深い目の紙箱は、じつと見てゐるいろいろ
のものの主體に利用して面白い。箱の家、箱の動物の胸

危険な遊びを避けることは、その折そのことに就て、必
要ならば注意を與へるこいふ具合でいいであらう。それを、
子さもはまだ知らない前から、これくの遊びはいけない
こ、却つてそんな、危い遊びを知らせるやうなこはしない
がいゝだらう。

こゝろで、生活訓練には舉げてないが、そろくお正月
が近づいて来る。子さも達の、今一番樂しみにしてゐるの
は、そのお正月である。その心のたのしい思ひを汲んで、
その話を持ち出して、よろこばしてやることも、心の訓練
の一つである。訓練といふのは可笑しいこいふ人もあるか
も知れないが、喜びを喜びこして呉れるのを喜ばせること
は、相當意味のある訓練である。